〈はじめに〉

『文化と生物学』編集部一同

ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』Vol.2 を刊行しました。前号から約 11 ヶ月。なんとか 2024 年中に間に合いました。今回の特集テーマは「キャラ」と「腐敗」です。

特別企画として〈腐生植物〉をキャラ化しました。〈腐生植物〉の実態は菌類を騙して寄生する「菌従属栄養植物」です。しばしば光合成能力すら退化させており、どこか妖しくも神秘的な魅力も備えています。この〈腐生植物〉の研究者・末次健司さんにアドバイスいただきながら、気鋭のアニメーション作家・ひらのりょうさんにキャラを作成していただきました。

「キャラ」を作成するとはどういうことなのか。「腐敗」テーマにした「キャラ」を『文化と生物学』にゆかりのあるクリエイターに作成してもらい、キャラクターデザインを教える研究者・小川剛さんから的確なアドバイスをいただき記事にまとめました。さらに「キャラ」と「腐敗」な世界の捉え方をより拡げるために、コグニティブデザイナーであり研究者の菅俊一さんと、同じく研究者の津田和俊さんにそれぞれのワードを深めるコンテンツを紹介いただきました。また「腐敗」にまつわる寄稿を 6 名の専門家にお願いしました。スカベンジャーの研究をしている稲垣亜希乃さん、ちとせ研究所で微生物を用いた食品開発をおこなっている柳町みゆきさん、建築史の中谷礼仁さん、ゾンビ学を研究している岡本健さん、文化財や芸術の保存について研究をおこなっている平諭一郎さん、弁護士の水野祐さんが、それぞれの専門分野と「腐敗」について考察してくれました。

連載では、プラクショナーコレクティヴ・コ本やのブックガイド、虫の糞からお茶をつくる研究者・丸岡毅さんの寄稿、『文化と生物学』編集部・切江によるかぶとむし考、同じく飯沢によるコンビニ学、イグ・ノーベル賞の日本担当ディレクターとしてお馴染みの古澤輝由さんによるプレイリストなどがあります。また『文化と生物学』で少しお手伝いした 21_21 DESIGN SIGHT で開催中の企画展『ゴミうんち展』について、会場構成を手がけた建築家・大野友資さんによる寄稿を掲載します。さらに、編集部・切江と細谷が主催した接木を実践するワークショップ『結合合宿』のレポート & エッセイ集も紹介します。

本号にご協力いただいたみなさま、アドバイザーである岩崎秀雄さん、伊勢武史さん、そして桝山寛さんに感謝いたします。

「陽」と「陰」のように対極的にもみえるテーマである「キャラ」と「腐敗」をどう咀嚼できるのか。ズカンフ〜ザッシ『文化と生物学』を読みながら、独自の読み解き方に挑戦していただけたら幸いです。